

# 特定非営利活動法人 古材文化の会

代表者	永井 規男
所在地	〒605-0981 京都市東山区本町17丁目354番地
設立年月日	1994年9月25日
URL	<a href="http://www.wood.jp/kbank/">http://www.wood.jp/kbank/</a>

## 【設立趣旨】

特定非営利活動法人古材文化の会は、歴史的文化的価値ある木造建築が安易に廃棄されることに危機感を感じた幅広い分野の市民によって設立され、日本が誇る木の文化を守り、木造建築分野での持続可能な社会を実現するために、古建築及び古材の活用を促進すること、伝統的木造建築文化と建築技能の継承と発展を図ることを主な柱として活動している。

## 【沿革】

当会の前身である古材バンクの会の誕生は、1992年度（平成4年度）と1993年度（平成5年度）に京都府農林水産部林務課が林野庁の補助事業である「木質廃棄物再資源利用促進体制整備事業」に取り組み、「古材リサイクル検討部会」において関係者が2年間協議を行ったことを契機としている。

事業終了後、部会メンバーが発起人となり1994年9月25日に70余名で任意団体「古材バンクの会」を結成し、「古材の提供者と利用者のネットワークを作り、古材の活用を促進する。」ことや「伝統的木造建築文化と建築技能の継承と発展を図る。」ことを実現するための全国組織として活動を開始した。

その後、会員数も増加し、任意団体の7年余りの活動実績を基礎に2001年4月に特定非営利活動法人となった。さらに、古材や古建築の再利用への理解が社会的に浸透してきたことから、2005年10月の総会において「古材文化の会」と名称変更を決定し、2006年3月に変更登記を完了した。

## 【活動目的】

古材文化の会は、現在、以下の3つの目的を掲げて活動している。

- 1 古建築及び古材の保存と活用を促進する。
- 2 伝統的木造建築文化と建築技能の継承と発展を図る。
- 3 資源と共存する持続可能な社会の実現を目指す。

## 【活動内容】

古材文化の会は、持ち主の方を対象として木造建築の活用や再生の無料相談を行い、古民家の調査や解体情報の整理・発信を行うなど木造建築や古材を活かすための活動、資源の大切さをPRするイベントや勉強会、再生建築見学会、さらには、市民が建築職人から技術を学ぶ甲乙塾や瓦塾などの実習講座、会員の交流を兼ねた全国集会などを開催している。

地道な木造建築文化の継承と評価の普及活動を続ける中で、2003年12月には、京都市より「第1回 京都環境賞」を、2004年10月20日にはリデュース・リユース・リサイクル推進協議会に



民家再生の取り組み



職人から建築技能を学ぶ甲乙塾

よるリデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰事業で国土交通大臣賞を授与された。その他、2005年度の環境省 NGO/NPO・企業の環境政策提言事業において、当会の提言が最優秀となるなど政策提案活動も積極的に行っている。

また、2005年から4年間、「伝統建築保存・活用マネージャー養成講座」を行い、木造建築の評価、メンテナンス、および再生・活用マネジメント等の能力を有する人材の育成に力を入れ、延べ113名の修了者を出した。この人材養成の取り組みは行政を動かし、2009年からは京都市及び（財）京都市景観まちづくりセンターと当会の3者で

実行委員会を結成し、当会が運営事務を担う形で養成講座を引き継いだ「京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」を開催する様に発展している。



京都市文化財マネージャー育成講座



中世の瓦を再現する実習

## 【活動上の課題と今後の展望】

古材文化の会は以上のように結成以来活動を徐々に発展させてきたが、その活動の中でどのようにすれば価値ある木造建築が活用され守られるのか検討を重ねてきた。その結果、地域の木造建築を全般的にサポートするセンター（会では「木造建築サポートセンター」と称している。）を全国各地につくろうと関係NPOや行政などに提唱する方針を決定した。

風土の中で発展してきた日本の木造建築は、環境に優しく景観にマッチした建造物であり、しかも適切な管理を行うことによって住まいとしても優れた特質を備えた長寿命の建造物である。暮らしを含めて日本文化の見直しの機運が高まっている中で、古材文化の会は人の寿命よりはるかに長い命を持つ優れた木造建築を支える高い能力を持ったネットワーク組織を各地につくろうと活動を強めている。

木造建築を持続的に支えるためには、地域ごとに経済的に成り立つ仕組みと行動する人材が不可欠である。

そこで、古材文化の会は、木造建築の保存活動を支える高い実践的能力を持った人材を養成するために「伝統建築保存・活用マネージャー上級講座」を2009年9月から開始した。

最後に、残る最大の課題は優れた木造建築の保存と活用に取り組む古材文化の会やその他のNPO団体の活動を支える財政力と組織力を強化することであるが、これも多くの皆様のご支援と会員の積極的な努力と知恵によって克服して行きたいと考えている。



竹と和紙で明かりをつくる教室